

[5] 支部だより

北海道支部

支部長 (S54, S56) 川合紀章

北海道支部は、現在40名を超える会員で構成されており、毎年6～7月頃に開催する支部会合などで懇親を深めています。ただ残念ながら今年はコロナ感染対策のため、支部会合の開催を当面の間延期しているところです。

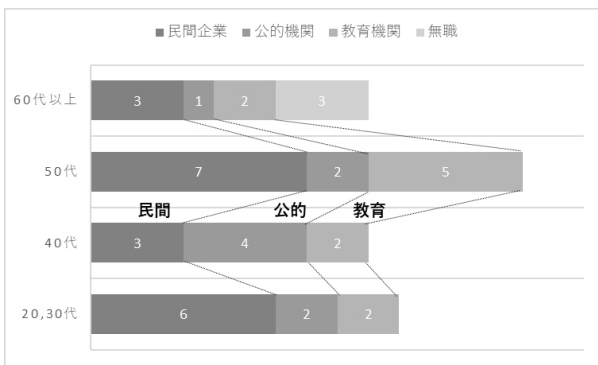
観光業が基幹産業の一つである北海道はコロナによる影響を大きく受けており、ニセコをはじめとして急増していたインバウンド観光も新千歳空港の国際線の運休が続き、厳しい状況です。新千歳空港の国際線ターミナルと滑走路を結ぶ誘導路の混雑対応として、今年3月に供用開始した新たな誘導路もその機能を発揮できないでいます。新型コロナウイルスの早い終息を願うばかりです。

さて、北海道支部の現状について、現在の会員構成を下図に示しましたが、建設業を中心とした民間企業の会員が半数近くで、その外の会員は国土交通省北海道開発局などの公的機関や北海道大学などの教育機関に属されています。

北海道支部の特徴としては、20代・30代の若い会員が支部会合にも多く出席されており、支部を活性化してくれていることです。今年度から支部の幹事として、これまで支部を支えていただいている山田菊子氏 (H1, H3)、栗山健作氏 (H12, H14) に加え、新たに北海道開発局の大谷篤嗣氏 (H29, H31) が幹事になってくれました。若い力による支部活動のさらなる活性化に期待を寄せているところです。

また、全学の同窓会である北海道京大会の会長に昨年から私が就任したこともあり、京土会北海道支部と北海道京大会との連携を深めていきたいと考えています。早速、北海道京大会ゴルフ部会に支部会員からの参加が増えるなど、北海道でのオール京大OBとしての懇親が進んでいます。

以上、北海道支部の近況報告といたしますが、京土会の益々の発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動への引き続きのご協力をお願いいたします。



北海道支部会員の構成

東北支部

支部幹事 (H14, H16) 高木 猛 志

東北地方でも、新型コロナの影響が深刻です。過去の東日本大震災から約10年が過ぎ、京都には及ばないまでも、観光業を活用した地域の復興がやっと軌道にのり、東京オリンピック関連で更なる進展を図っていた矢先であっただけに大きく落胆している状況です。地域を代表するホテルや店舗が廃業を決める等、関東圏ほど感染者数や経済の影響が大規模な状況ではないとはいえ、暗いニュースが続いています。また、幸いにも7月末まで1人の感染者も発生していなかった岩手県の方と話した際、「周囲の目を考えると、感染者第1号には絶対になりたくない。」との話をされており、心理的な面でも影響は生じていると実感しています。

業務においても、出張や打合せの制限、在宅勤務の実施等、支障が大きい時期が続きました。

そのような中、自宅に帰ると、長期休校に乗じてYOU TUBE閲覧を堪能する小学5年生の息子や、ZOOMでのコミュニケーションに没頭する妻がおり、SNS等に無関心な自分が慣れ親しんでいるものとは異なる世界が成長していると実感する機会になりました。

現在、リモートワーク、在宅勤務、DX等、新型コロナをきっかけにした社会の急激な変化に対応していく必要性を感じています。東北支部内でも、新型コロナ環境を踏まえて支部活動の在り方を考えていく必要性も話題になっておりました。

さて、東北支部の活動実績ですが、新型コロナ深刻化以前の1月24日に新年会を開催し、10名で和気あいあいと飲みあいました。震災復興の進捗に伴い、東北支部から転出される方も出てきておりますが、京土会東北支部はこれからも気軽に参加できるフレンドリーな活動を続けていきたいと考えています。今回、新年会に参加いただいた方は以下の通りです。

遠藤さん (S49, S52)、奥村さん (S59, S61)、久田さん (H2)、河井さん (H3, H5)、加藤さん (H4)、伊藤さん (H7, H9)、長田さん (H9, H11)、田中さん (H13)、三輪さん (H13)、高木 (H14, H16)



新年会写真 (令和2.1.24)

東京支部

代表幹事 (S57, S59) 安部吉生

全国的なコロナ第二波の到来のせいで、東京では連日、多くの感染者が発生しています。

最近の感染者は若い人が多く、かつ重症者が少ないこともあって、都内は落ちついた状況ですが、電車の混雑状況などはコロナ渦以前に戻りつつあります。銀座や新幹線などは、いまだに人出が減ったままとはいえ、油断をすると日常の中に感染の危険が潜んでいるのは間違いなさそうです。やはり埼玉、千葉、神奈川なども含めた首都圏に、日本人の四人に一人が暮らしているという人口密度は尋常ではなく、街に溢れる人たちが皆、マスクをつけている光景は異様ですらあります。

東京オリンピックの延期、旅行目的の移動自粛など、2020年は東日本大震災からの復興をアピールする節目の年になるはずが、一転、予想もしなかった事態となり、人々がストレスに晒されながら生活することになるとは誰が予想したでしょうか。やはり、毎年、毎年の水害だけでなく、十年に一度は大きな試練に見舞われる現実をみると、危機管理の観点から、国のあり方を改めて考えさせられます。

コロナの影響を受け、毎年、6月の第一月曜日に開催している東京支部総会も、本年は中止せざるをえない状況に追い込まれました。例年、各方面から百五十名を超える方々の出席を賜っている状況ゆえに、感染防止が最優先とはいえ、大変残念な結果となりました。

さて、小職は京都大学同窓会東京支部連絡会にも出席しておりますが、他学部、他学科の同窓会組織と比べて、優れた京土会の組織と運営を実感いたします。このような非常時でも、同窓生間の連絡や情報交換がスムーズに行われ、皆様に迷惑をかけずにすむのは、本学を中心とした組織があるからです。

改めて御礼申し上げるとともに、京都大学土木会のみますの発展の一助となるよう微力ながらも努力してまいります。

最後に、全国の同窓生の皆様のご健康を心よりお祈りいたしております。

千葉支部

(H4, H6) 辰見タ一

千葉支部では、例年3月に千葉駅周辺で懇親会を開催しておりますが、今年はこの時期に急激な広がりを見せていたコロナ禍の影響で開催は一旦延期させて頂きました。会を延期した当初は4～5月頃にはコロナも落ち着いてすぐに開催出来ると考えていましたが、その予想に反して、この会報を執筆している8月時点も依然予断を許さない状況が続いており、千葉支部の開催を楽しみにしている一人としては大変歯がゆい思いをしております。今度の懇親会は支部創

設以来ちょうど30回目の節目にあたることから、また状況が改善され次第、また楽しい会を催せるようにしたいと考えております。

さて、今回の支部報は、S40卒の前川行正様にご執筆頂きました。前川様は当初3月に予定していた懇親会の日程はご都合が悪いということで、懇親会に参加される皆様への近況報告として、事前にお預かりしていたものになります。この場をお借りしてご紹介させていただきます。

(S40) 前川行正

昨年9月の敬老の日に区役所から、長寿の祝い金（金額は5000円ですが）をもらいました。数え年77歳の喜寿を祝うそうです。私もこの1月に満77歳になっております。長寿ということからではありませんが、土木学会の委員会活動を、昨年7月に委員を辞任しました。ただし、土木学会には、終身会員の会費を払って、継続します。

私が所属していた委員会は、安全問題研究委員会といい、20数年前に、時の土木学会会長であった故松尾稔先生の肝いりで、立ち上げられ私もほぼ同時に入会いたしました。松尾先生は、未だ京大のうら若き講師時代ですが、小生の卒論の指導教官として、後に名古屋大学の工学部長・学長などもやられた先生です。

20数年間のうちには、トンネル内でのコンクリートの剥離事故に問題を生じて、コンクリートの品質や施工法などを議論しました。丁度9年前の東日本大地震を契機にBCPという概念が委員会の中で大きな位置を占めるようになり、私達も真剣に議論をはじめました。大自然の力の前には土木技術では対抗できないものであることに気づき、「災害発生のなかでの、いかに生き残るか？」が最大のテーマでそれ即ち防災を研究することになったのです。しかし、防災はどちらかという、災害から逃げ出すこと、自分の命をまもることでありました。それに対して一昨年頃より、土木技術者は災害から単に逃げるのではなく、「大自然の力の前には土木技術では対抗できないものであるとしても」どうすれば、災害を防げるかを考えるべきではないかと考えはじめました。即ち事業継続という観点から土木技術を生かすことは出来ないだろうかと考えました。

一昨年11月に、土木学会の『安全問題討論会』のなかで、「事業継続の観点からの土木技術」という題目で、パネルディスカッションをし、その司会を小生がやりました。その後、そのパネルディスカッションの結果（内容については時間の都合で省略しますが）を踏まえて、「安全工学シンポジウム」でも発表しました。そんなわけで、結構元気に活動していたのですが、委員会の中に、小生の方向におもしろく思わない人がいて、小生の意見にことごとく反対し、「前川さんとは、議論したくない」とまでいう委員が現れ、一方では小生の意見に賛同するものもいるのではあるが、「老兵は去りゆくのみ」と委員会発足以来の委員は私一人でありながら、この際この委員会から身を引くこととしました。

そんな訳で、随分フリーな身分となりましたので、身の周りの整理もしていかなければ、ならないのですが、兵庫県には、亡くなった父母の住んでいた実家があり、千葉市原には、50年近く住んでいる家もあり、兵庫の実家を処分するにも、弟や大阪に住んでいる妹がいて、実家には、仏壇もあり、私が生きているのは、処分するにはいろいろ問題も多く、元気なうち、せめて15年くらいは、出来るだけ、実家に帰るしか無いかなと考えています。現在は、月一回、実家へ戻って、家の掃除や墓参りをやっています。

昨年の台風15号では、市原の家の屋根のごく一部ではありますが、スレートの屋根のジョイント抑えのトタンが吹き飛んだ被害があり、でも金額にすれば、約百万円近く請求されました。昨年は、房総地区を台風が何度か来襲しましたが、これは、地球温暖化の結果だと、研究者は指摘します。地球温暖化というと映画「猿の惑星」のラストシーンで、主人公が砂浜を歩いている時「アメリカの自由の女神の頭だけが出てきたシーン」を思い起こします。これは、戦争などで放射能で汚染された地球で人類が減った象徴だとして、主人公が号泣するシーンである。環境を人間が破壊していく報いなのだと、哀しい気持ちです。悲しんでばかりでいられない気持ちです。うかうかしていると、地球は砂に埋もれてしまうのではないかと、真剣に思う昨今であります。

新潟支部

(H20, H22) 佐藤 朋 弥

新潟支部の近況をご報告いたします。

新潟支部では例年3月中旬に支部総会を開催しておりますが、本年は新しく支部長に就任されました曾根隆夫様(S51)のもと、3月18日に開催する予定で準備を進めておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、残念ではありますが総会開催を中止することとなりました。感染拡大の第2波も警戒されているところではありますが、来年は皆様との賑やかな総会・情報交換会が開催できますことを切に願っております。

新潟の経済・観光を中心とした近況について触れたいと思いますが、一昨年の大雪から一変、ここ2年は暖冬小雪が続きました。生活をする上では有難い話なのですが、「スキー場がオープンできない」、「暖房機器など冬物商材の動きが悪くなる」、「夏場の水不足に繋がりがねない」、「除雪事業者の仕事量が激減する」など、少なすぎてもそれはそれで問題が発生しますので、経済環境としては必ずしも良い状況ではありませんでした。そのような中、インバウンド面では、昨年10月30日に新潟-香港線の冬季限定便が新規就航し、香港からのスキー観光等を目的とした来県増に期待が寄せられていましたが、就航直前での香港における大規模デモの発生により利用は軟調に推移。また不遇は重なるもので、新潟-台北線を運行していた遠東航空が、経営難

を理由に昨年12月13日からの運行を取りやめることとなりました。その後、新型コロナウイルスの深刻度が徐々に増す中、新潟における日本酒の一大イベント「にいがた酒の陣」(本年は3月14～15日開催予定)も中止を余儀なくされました。延べ約14万人が来場し、その経済効果は約30億円とも言われるイベントの喪失に、感染症に対する多面的な危機感はより一層高まりました。

このように消費増税による需要の縮減に加えて、「暖冬小雪」、「インバウンド誘致に対する不可抗力的な痛手」なども重なっていたところでの新型コロナウイルスによる甚大な影響でしたので、各所大いに疲弊しているところです。Withコロナの状況下において、大きな痛手を負いながらも各観光施設は感染症対策を施しつつサービスを再開されています。マイクロツーリズムという言葉も生まれていますが、感染リスクと上手につき合いつつ「Go Toキャンペーン」も有効活用しながら新潟にも足を運んでいただけると幸いです。

最後となりますが、京土会の皆様のご活躍をお祈り申し上げ、新潟支部の近況報告とさせていただきます。

東海支部

(H7, H9) 澤木 夕紀彦

東海支部は、毎年度、主に東海地方に勤務地や住所のある同窓生の参加を得て総会を開催しておりますが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」)の影響により開催を見合わせております。京土会のことではありませんが、全学部同窓生を対象とする愛知京大会においては、山極総長、ノーベル化学賞受賞者の吉野氏をお招きしての総会・講演会・懇親会を企画し、代表幹事を中心に独自の感染防止策も検討して奮闘されましたが、残念ながら来年に延期されました。

このため活動状況の報告はありませんが、東海地方のインフラ整備等の状況についてご紹介することとします。

道路ネットワークについては、名古屋第二環状自動車道の西南部約12kmについて2020年度の開通に向け工事が進められています。この開通により、2013年度に全線開通した名古屋都市高速道路も含め、1966年度に登場した「マルサ計画」(注:道路網の形状が④に見えることに由来する通称)が完結し名古屋市周辺の高速度道路ネットワークが完成します。

名古屋市を大きく取り囲む東海環状自動車道(延長約153km)は、2019年度までに100km超の区間が開通しており、2026年度に全線開通(用地取得等が順調な場合)の見込みとされています。

中部国際空港(セントレア)は、コロナの影響により2020年3月の旅客数は減少したものの、年間旅客数は8年連続で前年度を上回り、2019年度は、過去最高の2018年度を

上回る約1259万9千人を記録しています。この空港については二本目滑走路を始めとする機能強化（完全24時間化）の早期実現が期待されています。

リニア中央新幹線については、品川・名古屋間の開業に向け、用地取得や工事が進捗しているところであり、特に名古屋駅とその周辺では、様々なまちづくりの調整が進められています。

2020年の大河ドラマは、明智光秀が主人公の「麒麟がくる」です。コロナの影響による放送休止もありますが、岐阜県や愛知県も舞台となっており、大河ドラマ館が設置されるなど当地域の観光振興に貢献しています。当初2020年に上映予定だったアニメ映画の「名探偵コナン」は名古屋が舞台となるストーリーであるところ、上映延期となっていますが、アニメ映画で有名なスタジオジブリ作品の世界観が表現される「ジブリパーク」の整備が、2005年開催の国際博覧会の会場であった愛・地球博記念公園（愛知県長久手市）で進んでおり、2022年秋には一部開業する予定です。人気のあるドラマ等の力も得て当地域の魅力がより高まることを期待します。

最後に、名古屋市中心部の久屋大通公園で2020年9月18日に開業したPark-PFI事業「Hisaya-odori Park」（ヒサヤオオドリパーク）※を紹介し、都市公園法改正（2017年6月施行）により創設された公募設置管理制度による事業で、公園と一体となった商業施設「RAYARD（レイヤード）Hisaya-odori Park」も同時オープンし、公園北側部分の約1kmの範囲に飲食・物販など35店舗が出店しています。以前と比べて魅力が大幅にアップし、夜間にもぎわいを見せています。公園内にある名古屋テレビ塔（1954年竣工）も同時にリニューアルオープンしました。



※「ミズベヒロバ」にある水盤からミストが吹き上がる様子

まちが、コロナの影響を受ける前の賑わいを取り戻すには、まだしばらく時間がかかるかもしれませんが、様々なプロジェクトが進捗しているところであり、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

長野支部

幹事（S61）青木謙通

長野支部は、本年発足5年目を迎えた新しい支部です。周囲を東京、新潟、東海、北陸の4つの支部に囲まれ、長野県に在住、在勤する会員により構成され、会員数が10名程度の小規模な支部です。

さて、本年、2020年は東京オリンピックが開催される年でありましたが、新型コロナウイルス感染症の全世界への拡大により、2021年へ延期されました。長野県では、遡ること約四半世紀前、1998年（平成10年）に開催された長野オリンピックを契機に、北陸新幹線や上信越道・長野道などの高速交通網が暫定的に整備をされました。約5年前、平成27年3月には北陸新幹線が長野から金沢まで延伸され、延伸区間内で県内唯一である飯山駅が開業をしました。また、リニア中央新幹線の品川・名古屋間の工事実施計画が国土交通大臣に認可され、2027年の開業を目標に、建設工事を進めています。県南部の飯田市には、新幹線駅が設置される予定で、開業後を見据えたまちづくりの取り組みが活発となり、今後の発展に期待が寄せられています。

一方、昨年10月には、東日本台風により長野市の穂保地区で堤防より越水、結果的に堤防が決壊し、千曲川から集落に水が押し寄せる衝撃的な映像が放映されました。直後から、全国より復興のボランティア、募金などのご支援をいただき、復旧・復興への力強い支援となりました。誠に、ありがとうございました。今後は、千曲川緊急治水プロジェクトを展開し、より安全な暮らしの確保を目指します。

支部の活動については、年1回の総会を開催するとともに、会員の要望に基づいた活動を展開する予定であります。本年は、新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、一同に会することは難しいので、オンライン会議形式を活用しての総会の検討をしています。

長野県に在勤、在住する京土会員で支部活動のご案内をお届けできていない方は、お手数ですが下記までご一報をお願いいたします。

結びに、京土会並びに会員の皆様方のご活躍とご発展を祈念し、支部の近況報告といたします。

連絡先（勤務先）

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2
長野県 建設部 技術管理室 青木 謙通
電話 026-235-7294

Mail aoki-kanemichi@pref.nagano.lg.jp

北陸支部

(H4) 市 森 友 明

北陸支部は、富山県、石川県、福井県の3県にまたがる地域であり、2020年9月現在で100名の会員を有しています。

1. 新型コロナウイルスの影響で総会が延期に

例年総会は7～8月に開催されておりましたが、本年度は開催案内時期と新型コロナウイルスの感染拡大期が重なり、金沢大学名誉教授 北浦 勝 支部長 (S42, S44, S47) とご相談の上、開催日を延期することとなりました。2020年12月5日に金沢で開催予定となっております。例年通りであれば、30名ほどの会員が集まる予定です。

2. 京土会北陸支部の現状について

北陸支部は3県で構成されています。福井県は28名の会員が在籍し、代表は元福井県土木部長の児玉 忠様 (S44) です。石川県は35名の会員が在籍し、代表は前(公社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議会長の横江 斉様 (S52) です。富山県は37名が在籍し、代表は富山県道路公社専務理事の村岡 清孝様 (S56) です。北陸支部は、県庁や北陸電力、または大学に所属している方が多いことが特徴の一つであります。また3年前に富山大学に土木系学科である都市・交通デザイン学科(1学年40名)が設立され、多くの京都大学土木系学科ご出身の先生方が教員として富山にいらっしゃったことが、近年の会員数の増加につながりました。また関西電力のご関係者も北陸支社(富山)やその他の職場に定期的に京土会の会員が転入されています。事務局としては、そのような転入者の早期の把握に努め、同窓会活動の活発化につなげていきたいと考えております。

3. 過去3年の同窓会開催状況

先述しましたように、本年度の総会が未開催であることから、本稿では過去3年間の総会の状況を再掲いたします。平成29年度北陸支部第31回支部総会は、平成29年7月8日(土)、金沢市の金沢茶屋で開催されました。各県担当幹事の皆様のご協力もあり、3県から22名の会員にご参加いただきました。講演会は「北陸新幹線金沢開業の光と影～来し方 行く末」と題して金沢学院大学経営情報学部教授 竹村 裕樹様にご講演いただきました。



平成29年7月8日 金沢での支部総会出席者の皆様

平成30年度北陸支部第32回支部総会は、平成30年6月30日(土)、富山市の自遊館で開催されました。各県担当幹事の皆様のご協力もあり、3県から29名の会員にご参加いただきました。講演会は「富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 始動～新時代を切り拓く新たな土木系の教育と社会貢献を目指して～」と題して富山大学都市デザイ

ン学部 都市・交通デザイン学科学科長・教授 久保田 善明様 (H20) にご講演いただきました。



平成30年6月30日 富山での支部総会出席者の皆様

令和元年度北陸支部第33回支部総会は、令和元年8月3日(土)、福井市のアオッサで開催されました。3県から18名の会員にご参加いただきました。講演会は「福井のインフラの整備と保全」と題して国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所長 嶋田 博文様 (H12, H14) にご講演いただきました。

例年講演会は各県の幹事が担当しておりますが、いずれも示唆に富む充実した内容となっております。ご参加者には好評をいただいております。また余興として恒例となっておりますのは、福井県 佐幸測量設計(株)技師長の脇本 幹雄様 (S54) のギターとフォークソングであり、毎年参加者の皆様を楽しませていただいております。このように北陸支部は年1回の総会懇親会行事ではありますが、会員の情報交換懇親の場としてその活動を継続しているところであります。



令和元年8月3日 福井での支部総会出席者の皆様

3. おわりに

2015年3月に北陸新幹線が開業し5年余りが経過しました。東京とのアクセスは各段に向上しているだけに、毎年申し上げますが、2022年度敦賀延伸が待ち遠しい限りです。また大阪への早期開通が期待されており、富山県京都大学同窓会会長を務める北陸経済連合会久和会長が中心となって政財界への要望を積極的に実施されております。開通後は、小浜-京都は19分、福井-大阪は55分で結ばれます。北陸地域の発展のため、我々北陸支部会員はそれぞれの立場で切磋琢磨していきたいと考えております。

最後になりますが、北陸支部は100名規模にまで会員数が増えました。福井県、石川県、富山県3県ともに京都大学全体の同窓会も立ち上がっており、京都大学関係者の交流も益々活性化しております。京土会の皆様、是非ともこの北陸に足をお運びいただければ幸いです。今後とも北陸支部をよろしく願いいたします。

京 滋 支 部

支部長 (S59) 田 中 照 彦

本年度支部長をおおせつかりました京都府商工労働観光部の田中です。

京滋支部の支部長・事務局は、京都大学、京都市、京都府、立命館大学の輪番で担当することが慣例となっており、今年度は、昨年度の京都市から私どもが引き継いでおります。

支部の行事につきまして、昨年度は、令和元年11月7日(木)、田辺カントリー倶楽部において、第40回石原杯争奪ゴルフ大会を不老会コンペに合流する形で実施いたしました。また11月15日(金)には京都ガーデンパレスにおいて、26名の会員の皆様にご出席いただき支部総会・懇親会を開催いたしました。総会では冒頭、令和元年度支部長である京都市の山中伸行様 (H7) から開会の御挨拶をいただき、京都大学からの来賓としてお越しいただいた社会基盤工学専攻教授三村衛先生、および都市環境工学専攻教授 藤井滋穂先生から、大学の近況報告や話題提供などをいただきました。

続いて、石原杯ゴルフ大会の結果が飛鳥建設㈱の安藤晴彦様 (S60) より紹介されました。

この後は事務局報告を経て懇親会となり、公成建設㈱の絹川定様 (S32) に乾杯のご発声をいただき、終始和やかな雰囲気の中で一同歓談することができました。京滋支部は母校の地元でもあり、京都府・滋賀県に在住・勤務されている卒業生の方々を中心に、約1,300名の同窓生や恩師の先生方が会員として所属しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、支部総会・懇親会については恒例の11月開催をいったん見送り、改めての開催に向けタイミングを探っているところでございます。会員の皆様におかれましては、お近くの同級生・同窓生などお誘い合わせの上ご参加いただき、懇親の場として支部総会・懇親会、石原杯ゴルフ大会の場をご活用いただければ幸いに存じます。

さて、京都府におきましては、令和5年度を全線開通目標としている新名神高速道路が、6車線化事業もあわせて、まさに工事が佳境を迎えています。こうした状況の下、IC近くではアウトレットモールの建設が着工されるとともに、各所で大きな物流施設や工場の建設に向けた動きが見られています。また、鉄道についても、JR奈良線の複線化・高速化第2期事業が令和5年春の開業を目指して進み、さらには北陸新幹線にかかる環境アセスメントの手続きが進むなど、まちの姿が大きく変化しようとしています。

また、関西文化学術研究都市の中核をなす、木津川市と相楽郡精華町にまたがる精華・西木津地区においては、国土交通省が推進するスマートシティのモデル事業に選ばれた「スマートけいはんなプロジェクト」が進められ、MaaSなどの移手段に加え、AIデバイスによる健康管理支援など様々な実証実験が行われています。これは、何も遠い未来の話ではなく、コロナウイルス感染症対策により行動変容が進む生活様式においては新たな日常となり得るものであり、ハード・ソフト両面から大きな変革の時期を迎えているところであります。こうした中、我々学生時代に土木を学んだ者として何ができるのか、これからも日々考えながら職務に従事してまいります。

以上、簡単ではございますが、京滋支部の近況報告とさせていただきます。

奈 良 支 部

幹事 (H4) 出 井 惣 太

奈良京土会は、奈良県内で勤務または在住のみなさん約200名の方が会員となっています。支部の活動として、毎年、会員の家族や友人も参加いただき、県内の名所旧跡などをゆったりと巡り歩く散策会を開催し、親睦を深めています。

令和元年度は、11月23日に、奈良県中部の田原本町で散策会を開催しました。近鉄田原本駅を総勢22名で出発し、かつて大和の五箇所御坊の一つであり、明治天皇も行幸された格式高い浄照寺や、袖卯建、丸窓、虫籠窓などの意匠をこらした店舗などがあり、和洋折衷の外観が独特の雰囲気醸し出している材木町の町並みなどをゆっくりと散策しました。

散策後は、近く中華料理屋で懇親会を開催しました。懇親会の開催に先立ち、京都大学経営管理大学院経営研究センター教授の山田忠史様から、ご講演をいただきました。経営管理大学院経営研究センターと田原本町は2019年5月に持続可能な地域活性化等を目的として連携協定を締結されていることから、田原本町の森町長にもお越しいただき、



田原本町とのかかわりや大学・工学を取り巻く環境などについてご講演いただきました。その中で、最近の学生の就職先としてITや外資系が増えてきていることなどもご説明いただき、時代の変化を感じました。会員相互の親睦を大いに深めるとともに、大学での研究の最新事情も学べるアカデミックな散策会となりました。

これからも、散策会を開催し、さらに会員間の親睦を図りたいと考えています。気持ちのいい親睦の場ですので、奈良県内で勤務されている方、奈良県内に在住されている方は是非ご参加ください。

大阪支部

(S60, S62) 渡瀬 誠

[支部活動報告]

大阪支部は、大阪、奈良、和歌山の3府県に在住・在勤の会員約2,400名で構成されております。

昨年度の活動といたしましては、11月27日にホテルグランヴィア大阪で支部総会を開催いたしました。当日は、今本先生、家村先生、嘉門先生の3名の名誉教授の先生方と、土木系教室から三村先生、宇野先生、環境系教室から高野先生、松田先生の合計7名の先生方にご臨席を賜るとともに、産学官から約180名のご参加を頂き、交流を深めることができました。

[幹事交代・支部会員の異動]

また、幹事も交代し、昭和62年卒のJR西日本の春名様と昭和60年卒の私、渡瀬が新しく幹事を務めさせていただいております。

続きまして、支部会員の主な方々の昨年度総会以降の異動についてご報告いたします。国土交通省近畿地方整備局では、昭和61年卒の溝口様が局長に、昭和61年卒の伊藤様が副局長に、平成4年卒の池口様が企画部長に就任されました。西日本高速道路株式会社では、平成2年卒の塩本様が総務部長に、阪神高速道路株式会社では、昭和56年卒の濱様が取締役兼執行役員に、昭和62年卒の奥村様が取締役兼執行役員に就任されました。大阪市では、昭和58年卒の城居様が経済戦略局理事、昭和63年卒の寺川様が建設局理事に就任されました。

[大阪の近況報告]

2025年大阪・関西万博の開催に向け、会場となる夢洲の埋め立てをはじめとした夢洲周辺インフラ整備はもとより、土木・環境分野における様々な取組みを推進し、今回の万博を契機に大阪の一層の都市格向上、まちの飛躍的な発展につなげていかなければならないと考えております。

高速道路ネットワークでは、2026年度完成予定の淀川左岸線(2期)について、工事を前倒し、早期整備を図ることにより、2025年の万博開催時に新大阪駅・大阪駅などから

万博会場へ向かうシャトルバス等のアクセスルートとしての供用をめざしています。淀川左岸線延伸部は、2031年度供用に向け事業中です。また、大和川左岸で西名阪自動車道と阪神高速湾岸線を直結する阪神高速大和川線が2020年3月28日に全線開通しました。堺浜～松原JCT(ジャンクション)間は一般道経由で45分を要するところ、大和川線を利用することで16分へと大幅に短縮、また、神戸方面～大阪南東部/奈良方面、大阪北部/京都方面～関空方面を1号環状線を経由せずに迂回できるようになり、大阪中心部の高速道路の渋滞緩和も期待されています。

鉄道ネットワークでは、うめきたとJR難波、南海新今宮を結ぶなにわ筋線が、2020年2月に国土交通大臣から工事施行許可を取得、2031年春の開業を目指して事業中です。北大阪急行の延伸区間は、2023年度の開業目標に向けて工事が進捗しています。大阪モノレールの延伸区間は、2020年4月に国土交通大臣から工事施行許可を取得、2029年の開業を目指しています。またリニア中央新幹線や北陸新幹線が新大阪につながることで、関西の鉄道ネットワークがさらに充実するものと期待しております。

さらに、この2路線が乗り入れ広域交通の一大ハブ拠点となる新大阪駅周辺地域は、「都市再生緊急整備地域の候補となる地域(候補地域)」として公表されたことを受け、国、大阪府、大阪市、経済団体、民間事業者などからなる新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会を設置し、将来のまちづくりについて検討を進めており、2020年3月に、20年から30年先を見据えた新しいまちづくりのコンセプト「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域 まちづくり方針の骨格」を取りまとめました。

うめきた2期区域においては、みどりとイノベーションの融合拠点形成に向け、新駅設置事業、JR東海道線支線地下化事業などを推進するとともに、民間公募の開発事業者による開発に2020年秋に着手、2023年春にJR東海道線支線地下化切替・うめきた新駅開業、2024年夏に先行まちびらき、2027年春に基盤整備事業の全体完成を予定しています。さらに、「うめきた」から「なんば駅前広場」までを歩行者中心の空間へと整備を進めていきます。特に「御堂筋」については、人中心のストリートをめざす「御堂筋未来ビジョン」の実現に向け、道路法改正により創設された「歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)」制度も活用し歩行者中心の道路空間を実現したいと考えています。現在、千日前通から道頓堀川までの区間の側道歩行者空間化の工事を実施中です。

災害対策については、南海トラフ巨大地震に対する堤防・橋梁・鉄道の耐震対策を推進しています。特に、津波浸水被害軽減のため、2014年度から概ね10年間で海岸・河川堤防の耐震・液状化対策を進めています。また、2018年の台風21号では三大水門が機能を発揮し高潮被害を防ぎましたが、老朽化が進んでおり津波対策も不十分であることから、三大水門の更新事業に着手しました。河川施設としてはじめて大深度地下法を適用する寝屋川北部地下河川の立坑築

造工事に着手、安威川ダムは2021年度の完了を目標に工事を進めています。

そして、全国のインフラ施設全般が更新期を迎える中、早くから都市化した大阪にあっても、道路、橋梁、河川、岸壁、防潮堤、上下水道など都市インフラ施設の老朽化が進んでいるため、公共施設の機能確保に向けアセットマネジメントによる計画的な維持管理の推進に努めています。

2025年には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開催されます。また、万博開催を契機に、先に紹介した事業をはじめ様々な取組みを推進します。これらの取組みは、新型コロナウイルスの感染拡大の防止と社会経済活動を両立させる「コロナと共存する社会づくり」にも通じるものであり、「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に向けて精力的に進めていかなければならないと感じています。

大阪支部といたしましては、産学官が集結・率先して、これら諸課題の解決に連携して取り組み、大阪、関西ひいては我が国の成長に一翼を担えるよう活動してまいりたい所存です。なお、例年11月に実施している支部総会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ熟慮した結果、今年の開催は延期することといたしました。京土会の皆様方におかれましては、一層のご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

神戸支部

支部長 (S58, S60) 濱 浩 二

神戸支部は、兵庫県下に在住・在勤の会員約1,100人で構成されており、年に1度、支部総会・見学会などを開催しています。昨年の支部総会は、11月25日に神戸三宮東急REIホテルにおいて、会員約50名の出席のもと開催しました。総会には、大学から八木知己 教授（京都大学大学院工学研究科社会基盤工学）、音田慎一郎 准教授（京都大学大学院

工学研究科都市社会工学）の両先生にお越しいただき、交流を深めることができました。総会に先立ち、講演会では神戸大学の大石哲教授から、「i-construction, インフラデータ・プラットフォームに資するデータ変換とシミュレーションによる災害対応社会の形成を目指して」と題して講演いただきました。また、同日、阪神電鉄の住吉・芦屋間連続立体交差事業の現場見学会も開催しました。

ここで、最近の神戸支部関係のインフラ整備等の状況をご紹介します。

道路関係では、地域発展の基盤となる基幹道路ネットワークの整備が進んでいます。大阪湾岸道路西伸部は、六甲アイランド地区などで工事が進むとともに、高速道路を活用して、海上橋梁部に整備する展望施設の検討が進んでいます。北近畿豊岡自動車道は、未供用区間が全て事業化され、11月1日には日高豊岡南道路（延長6.1km）が開通しました。山陰近畿自動車道は、浜坂道路Ⅱ期が昨年工事着手されました。名神湾岸連絡線では、環境影響評価・都市計画手続きが進み、播磨臨海地域道路では、計画段階環境配慮書が公表されるなど、事業化に向けた準備が着々と進んでいます。

港湾関係では、神戸港で、トランシップ貨物の誘致など集荷施策を強力に進めるとともに、国際競争力のある高規格ターミナルの整備などにより、機能強化が図られています。

空港関係では、神戸空港で、関西全体の航空運輸需要の拡大、関西経済の発展に貢献できるよう、利活用の拡大が図られています。但馬空港では、航空需要や高規格道路の供用などの環境変化を踏まえ、滑走路延伸を含めた今後のあり方が検討されています。

防災・減災関係では、総合的な治水対策として、河川改修に加え、超過洪水時にも決壊しにくい堤防の整備や、引原ダムの堤体嵩上げ等によるダム再生に取り組まれています。また、利水ダムでは、ダム管理者、利水者の協力のもと、事前放流等、ダムの利水容量を治水対策として活用が推進されています。土砂災害対策として、第3次山地防災・土砂



神戸支部総会（令和元年11月25日 神戸三宮東急REIホテルにて）

災害対策計画に基づき年間74箇所の砂防堰堤が重点整備されています。地震・津波対策では、南海トラフ地震や日本海側で発生する地震による津波に備えるため、津波防災インフラ整備計画に基づき、防潮堤等の沈下対策などが計画的に推進されています。

以上が神戸支部をめぐるインフラ等の整備の現状です。

災害が多発した平成の時代の発端といえる阪神・淡路大震災から25年を迎えました。本格的な令和時代の幕開けとともに始まった新型コロナウイルスとの戦いもまだ続きます。震災の経験と教訓を継承し、引き続き防災力の向上とともに、新しい社会の実現に向けて社会基盤整備を推進していきたいと思えます。

最後に、支部会員の益々のご活躍と京土会の発展をお祈り申し上げるとともに、支部活動への引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

岡山支部

幹事長 (S61) 長尾俊彦

新型コロナウイルス感染症が再び広まる気配を見せています。今年初めに確認されたウイルスは、グローバルな人の動きに乗って瞬く間に世界中に拡散しました。その結果、face-to-faceのコミュニケーションが制限される状況になっており、私たちの暮らしも「新しい生活様式」に代表されるような転換が求められています。岡山支部を始め、その他の同窓会活動も少なからず影響を受けております。この会報が発刊される頃はどうなっているかと心配しながら、一日も早い終息を願っているところです。

さて、岡山県では、未曾有の被害が発生した一昨年7月の西日本豪雨から2年を経過し、高梁川と小田川の合流点の付け替えや支川の改修等を集中的に実施する「真備緊急治水対策プロジェクト」が、2023年度の完成を目指し、国・県・市が連携して進められており、今まさにそのピークを迎えているところです。

また、中国横断自動車道岡山米子線の4車線化整備も、2016年度に事業に着手された9.4キロ区間について、今年度の完成を目指し、橋梁上部工などの工事が急ピッチで進められています。完成が近づいた現場の姿を目にしなが、早期の全線4車線化に期待する声が一層高まっているところです。県南の国道2号や国道180号についても、岡山・倉敷間の渋滞対策の計画段階評価が行われており、事業化への歩みが加速しています。さらに、県が事業主体の地域高規格道路美作岡山道路も、最後まで残っていた英田～吉井間の事業化に動き出そうとしています。

水島臨海工業地帯を背後に持つ水島港では、国際バルク戦略港湾への選定を契機として、岸壁や航路、泊地の整備や穀物用の荷役機械等の整備に取り組み、今年6月には新しい埠頭を供用したところであり、外貿専用ターミナルのコンテナヤードの拡張など、さらなる機能強化を進める予定

としています。

西日本豪雨からの復旧・復興はもとより、その先をにらみ、さらなる発展を目指した取組を展開していきたいと思っております。引き続き、皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

岡山支部の近況ですが、会員数は60～70人で推移しております。今年度の会員の異動ですが、富田貴敏氏 (H7, H9) がネクスコ西日本中国支社から国土交通省岡山国道事務所長に転入されておいでです。また、(株)エイト日本技術開発中国支社の福島康宏氏 (H11, H13) が関西支社に転出されておいでです。県関係では、樋之津和宏氏 (S57, S59) が土木部長を勇退され岡山県土地開発公社の常務理事に就任されました。後任の土木部長には原田一郎氏 (S62, H1) が就任されており、原田氏の後任の都市局長には、中山基隆氏 (S58) が就かれました。バトンタッチとなりましたが、引き続き、同窓のお二方のもとで、県の土木行政を推進する体制となっております。

岡山支部では、毎年、春に前期、秋に後期の、2回の懇親会を開催しております。本年は残念ながら、新型コロナ感染症の影響で、前期の開催を断念することとなりました。長い支部の歴史の中で初めてのことと思います。本稿では、昨年11月22日にサンビーチ岡山で開催した、昨年度後期の会の写真を掲載いたします。この会には20名の会員の皆様に参加いただきました。笑顔の絶えない、和気あいの支部の雰囲気をお伝えできればと思います。岡山支部の懇親会には、県外からのご参加も大歓迎ですので、お気軽に足をお運びいただければと存じます。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご活躍と京土会のご発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動へのご支援をお願いし、岡山支部からの近況報告とさせていただきます。



【写真後列左から】

西村氏、杉原氏、小林氏、二摩氏、和田氏、原田氏、大塚氏、岡田氏、中山氏、山本氏、長尾

【写真前列左から】

西垣氏、服部氏、伊丹氏、吉川氏、阿部氏、樋之津氏、名合氏、尾島氏、時松氏

広島支部

(H25, H27) 井上 丈 揮

広島支部の近況をご報告します。

支部会員数は現在96名で、異動・転出などにより、昨年より減少となりました。

今年度の支部総会及び懇親会は、コロナ禍の情勢を考慮し延期しておりますが、現状では開催が困難な状況でございます。総会も延期となっており、年に一度の支部会員が一堂に会するメインイベントが例年どおりに開催できないことは非常に残念でなりません。全国で同様の状況かと思われませんが、今後感染が落ち着いて支部総会を開催できるようになることを切に願うばかりです。

なお、今年度の本部評議員、支部役員については、昨年度からの変更はなく、本部評議員を佛原 肇 様 (S53, S55)、福原 真爾 様 (S54)、支部長を井上 徳宣 様 (S52, S54)、副支部長を楠橋 康広 様 (S58, S60)、幹事長を水島 賢明 様 (S62)、幹事を合田 尚義 様 (H3, H5)、荻野 正博 様 (H8, H10)、家島 大輔 様 (H9, H11)、兼松 幸一郎 様 (H19, H21)、橋本 涼太 様 (H24, H26, H29) に務めていただくことになっております。

さて、最近の広島県の状況でございますが、インフラ整備では、広域交流・連携基盤の強化に向けた大規模プロジェクトとして広島都市高速5号線事業や国道2号バイパス事業が進められております。また、広島西飛行場跡地の活用も計画されており、産業区域や多目的スポーツ広場に生まれ変わる方向で検討が進んでいます。

その他の状況といたしましては、サンフレッチェ広島に関連しまして、新サッカースタジアム整備の基本計画が策定されました。現在のスタジアムは郊外にありますが、新スタジアムは街なかに建設される予定となっております。これまで以上に広島のサッカー熱が盛り上がることと思います。

最後に京土会会員皆様方の益々のご活躍と京土会のご発展をお祈りするとともに、支部活動へのご支援をお願いし近況報告となります。

山口支部

幹事長 (H9, H11, H14) 中 島 伸一郎

山口支部は、山口県に住所あるいは勤務地のある同窓生を会員とし、現在約40名の会員からなっています。会員の転入出が比較的少なく、メンバーがほぼ固定していることもあって、会員どうしの親密な関係が築かれています。会員の約4分の1は定年退職された先輩方で、悠々自適の生活を送られたり、あるいは今も現場の第一線で活躍されたりしています。あとは県庁関係者が約4分の1、山口大学など教育機関が約4分の1、民間企業や研究所が約4分の1となっています。当支部では、1～2年に1回懇親会を開催しており、会員間の交流および情報交換の貴重な場となっています。

今年はコロナ禍で、交通インフラが困った状態に陥っています。運休で飛べない飛行機がミニチュアのように駐機場に整然と並ぶ映像や、ガラガラの新幹線、人影の消えた街中の映像を見ると、コロナ感染拡大を防ぐためだからしかたないとは思いつつも、動きたくても動けない、動けるのに動けないこの状態を、どう理解したらよいのかと、頭の中が混乱します。ここ30年ほどの間に立て続けに起こった震災や豪雨災害、テロなどを教訓に、われわれは、最悪の事態を想定することや、想定外をも想定することのトレーニングを積んできたはずですが、今回のような種類の災禍は、その範疇を超えているように思います。まずはこの事態が早く収束することを祈るばかりです。

山口支部は、三密を避けながらも密に連携し、しっかりと活動を進めていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

四国支部

支部長 (S52) 末 澤 等

四国支部は四国4県（徳島、高知、愛媛、香川）に居住または勤務する京土会会員で構成されています。近年の会員数は140名前後で推移しており、2020年5月現在、132名となっています。

四国支部では、例年5月後半の土曜日に支部総会を開催して、支部会員の懇親を深めていますが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総会を延期しております。まだ、予断を許さない状況と考えており、開催時期などについて思い悩んでおります。

例年の支部総会では、まず、事務局から四国支部の活動状況が報告され、ご臨席頂いた先生から本学の近況をご紹介いただいた後に、懇親会に移り、世代を超えて懇親を深めます。最後に、参加者全員がお互いに肩を組み合せて「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、参加者の団結を固め、京土会四国支部の発展を祈念して万歳三唱を行っております。

新型コロナウイルスの感染拡大が沈静化し、今年度も総会が開催できることを祈るばかりです。

四国支部では、過去数年間の支部総会参加者数が40名を下回っていることから、今後も、引き続き活性化に取り組み、会員同士の懇親を深めるための場である支部総会を盛り上げていきたいと考えています。

四国支部会員の皆さまには支部総会に積極的に参加いただくなどのご支援とともに、四国外の皆さまには四国に勤務する機会等がございましたら、四国支部総会にご参加くださいますよう、宜しく願いいたします。

北九州支部

幹事 (H21, H23) 福田 尚倫

注目されている北九州の関門海峡「下関北九州道路」は、下関・北九州を道路で結び、両市の都市機能を連結させ、両都市圏を一体的に発展させる建設プロジェクトである。今日まで両県・両市・地元経済団体の強い要望がなされ、昨年度から国土交通省の九州と中国の地方整備局で調査に着手された。

その結果、計画ルートは北九州（小倉・若松）-下関（彦島）間の海峡部（約2km）に3案（小倉・下関：2ルート、若松-下関：1ルート）が示され、投資効果を検討。渡海構造物はトンネル案も比較されたが、橋梁型式が妥当とされた。

今年度以降、市民アンケートの実施、計画ルートの選定、橋梁型式（桁下高・航路巾）の決定、建設費約4000億円の調達方法、事業主体のあり方など、基本的な調査・検討が進んでいくことになる。

さて、北九州市では、一時、病院や高齢者施設での新型コロナウイルスの集団感染が発生するなど、全国的にも注目されることもあった。このことから、今年度の定例会は、当面の間延期することとし、電話、メール、はがきにて支部会員各位の近況を確認しあった。

支部会員短信

藤井 崇弘 (S34, S36)

昨・令和元年11月、60年会が天津・琵琶湖畔であり出席した。旧友19名の顔ぶれ(概ね83歳)に会い、往時を語り合った。今年は、新型コロナウイルス感染の拡大、7月の九州豪雨。この感染と気象変動の中で、しっかり生きている。秋は囲碁の名人戦。芝野名人に井山棋聖・本因坊がどう挑むか。決戦七番碁を並べ、棋譜を楽しみたい。

垂水 國博 (S49, S51)

会社の経営において、新型コロナウイルスの影響は思ったほどありませんが、この状況が続けば将来的には心配です。プライベートではGWの海外旅行も中止となり、腰痛と相まって大人しく暮らしています。

垣迫 裕俊 支部長 (S52)

九州産業大学の教員として、はや2年目。ゼミや講義に忙しい日々を送っている。今年度はコロナ禍により慣れないリモート授業に四苦八苦。家庭では、市内に住む孫たちがよく遊びに来る。4歳、4歳、1歳、0歳すべて女の子。将来が楽しみ。

森川 真一 (S54, S56)

4月に65歳になりました。来年3月までは引きつづき市の上下水道局勤務ですが、その先は未定です。年とともに趣味のマラソンのタイムはだんだんと遅くなり、肩の痛みなどもでるようになり、頭の回転も少しずつ遅くなっている

ようですが、健康で元気なのだと思います。政令市とはいえ家が山の近くなので、ディスタンスをとって、人のほとんどいないトレイルを走ったり歩いたり楽しんでます。家庭では、3年前に大学を卒業して家にもどっていた娘が、つとめていた会社が廃業して関東の方に就職し、少し寂しくなりました。

吹中 範生 (H4, H6)

海外向けの廃棄物発電プラントの計画業務に従事。直近はコロナの影響もあり、リモートにて海外の顧客と協議。子供二人は大学生で下宿中。家内と猫二匹で暮らしています。

高田 純一 (H8, H10)

廃棄物発電プラントメーカーにて技術開発をしている。4月以降、新型コロナウイルスの影響で家にいることが多く在宅勤務も板についてきた。体がなまらないよう週末は家の近所をジョギングして汗を流すようにしている。

真名子 一隆 (H10, H12)

海外廃棄物発電プラントのプロジェクトマネージャーの仕事をしている。現在、コロナ影響で海外出張に行けなくなっているため非常に困っている。今年は長女と長男が大学高校ダブル受験で大変。

谷垣 信宏 (H11, H13)

廃棄物発電プラントメーカーにて勤務。昨年7月に7年間の海外駐在から帰任。駐在時に培った英語力を用いて、主に海外案件の受注前対応、実行を担当。

津守 嘉彦 (H15)

離島にて漁港の整備と集落排水施設の運転管理を引き続きしております。体のことを考えて昨年より減量をはじめました。ようやく20年前と同じ体重となった結果、血液検査でも上限値超過しなくなりました。

柏原 友 (H15, H17)

2017年からドイツの廃棄物発電プラントメーカー（子会社）に出向しデュッセルドルフにおります。日常生活はほぼ正常に戻りましたが、日本への一時帰国ができず日本の美味しい食べ物が恋しい毎日です。

藤永 泰佳 (H20, H22)

廃棄物発電プラントメーカーにて計画設計業務を担当しています。最近西日本支社に異動になり、大阪に引っ越しました。コロナが心配な状況ではありますが、大阪生まれなので、久しぶりの大阪を楽しみたいと思います。

福田 尚倫 (H21, H23)

廃棄物発電プラントメーカーにて設計・技術開発の仕事

に携わっている。2～7月は現場に滞在し、工場の試運転に従事。休日は3歳の息子と遊んで過ごしている。

吉元 直子 (H23, H25)

廃棄物発電プラントメーカーにて実証段階の技術開発を担当しています。育児とコロナの影響でなかなか外出できないので、行きたいところとやりたいことが溜まっています。

福岡支部

幹事 (H26, H29) 義 経 浩 平

福岡支部は、北九州を除く九州全域に在住・在勤の京土会会員によって構成されており、会員相互の親睦を深めています。

福岡支部では毎年6月頃に総会を開催しておりましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大変残念ではありますが総会を中止する運びとなりました。

九州の主な動きに話題は移りますが、気象庁によって「令和2年7月豪雨」と命名された2020年7月3日から7月31日にかけて、日本各地で発生した集中豪雨によって九州、特に熊本県に非常に大きな被害が発生しました。球磨川流域を含む熊本県南部では、6時間雨量最大値で200～500ミリ、12時間雨量で300～600ミリの雨量、24時間雨量で400～600ミリ超となり、7月3日(金)から4日(土)にかけての降水量は、熊本県水俣市513.0ミリ、球磨郡湯前町の湯前横谷497.0ミリ、人吉市420.0ミリと、いずれも平年の1か月降水量に相当する量となりました。この大雨により熊本県内全域で土砂災害や河川の氾濫が多数発生しました。また、約1万棟の家屋が被害を受けるとともに、道路や鉄道の寸断、広範囲にわたる停電、水道の断水など、あらゆるインフラにも多大な被害が生じました。新たな課題として、感染防止を図りながらの避難や復旧という難しい課題に直面しています。

九州では近年、大雨・台風等の災害が毎年のように発生しており、復旧、復興及びレジリエンスの向上といった観点から土木技術者の役割の重要性がますます上がっていると思慮します。

最後に、福岡支部の連絡先についてご案内いたします。懇親会などの支部行事のご連絡は京土会の会員名簿から九州在住在勤者を抽出しております。ご案内をお届けできない方はお手数ですが下記の担当者までご連絡お願いいたします。

連絡先

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2丁目4番8号 小学館ビル 3階

九電みらいエナジー株式会社 エンジニアリング第1本部風

力事業部

義経 浩平

TEL : (092) 980-5598

Email : kouhei.yoshitsune@q-mirai.co.jp

椿の会 (女性支部)

(H14, H16, H19) 松 田 曜 子

椿の会(女性支部)は2017年から活動を始めてきましたが、昨年正式に「支部」としてお認め頂き、2019年は当初から主に現役学生向けに行ってきた「キャリア支援交流会」の他、初めての試みとなる東京でのOG・OB懇親会を無事に開催することができました。

今回で3回目となるキャリア支援交流会は11月9日(土)の午後、京都大学桂キャンパスCクラスターの人融ホールにて開かれました。前回と比べると少ない参加者数ではありましたが、登壇してくださった方々を囲み、就職先による働き方の違いや、現在の研究や研究室生活の話など、現役学生とOG・OBの間で有意義な懇親の場を持つことができました。

今年の座談会では、例年通り島田洋子先生(都市環境工学専攻・准教授)から女子学生の研究環境や進路についてお話を伺った他、現在、京大土木系で唯一の女性・外国人教授としてご活躍中のアナ・マリア・クルス先生をお迎えし、「Career development in different countries」と題するお話を頂きました。先生はご自身のキャリアについて「とても例外的」と称しつつ、異なる国々や組織での仕事、あるいはご家族との生活の両立について、具体的なお話を頂くことができました。

その後、ラウンドトーク「わたしの働き方」と題し、各界に進まれた卒業生3名にお話を伺いました。稲岡美紀さん(H11, H13 JICA勤務)からは、JICAを勤務先として選んだ理由やアフガニスタンなどアジア諸国でのお仕事を、大西絢子さん(H13, H15 竹中土木勤務)からは、これまでのキャリアと現在の仕事、さらに2人のお子さんを持つ母としてプライベートと仕事の間のお話しを伺いました。森勇樹さん(H21, H23 JR西日本勤務)は、鉄道会社の業務の他、採用プロセスや女性社員が会社について語る様子を動画で流して下さるなど、身近な声を伺うことができました。会を通じてご参加頂いた京土会会長の米田稔先生からは、ご自身のご家庭の経験談も交えながら、椿の会の取り組みを応援して下さる旨のメッセージを頂きました。

また、10月19日(土)には京都大学東京オフィスにおいて、初めてのOG・OB懇親会となる昼食会を開催しました。卒業生8名と1歳児2名の自己紹介の後、テーマを定めず懇談しました。その結果、話題は「育児期間を含んだキャリアをどう設計するか」に終始し、このような会合が望まれていたことがわかりました。なお、開催にあたっては、京土会、京都大学に物心にわたるご支援をいただきました。また、

中山かおりさん（H6 清水建設勤務）、三輪理紗子さん（H27、H29 同）のお二人が幹事として尽力くださいました。心よりお礼を申し上げます。

私どもの会も、コロナ禍下で会を有意義かつ楽しく、持続可能なものとして運営する術を、身動きが取りづらい今だからこそ、検討していきたいと考えております。



初めて開催した東京オフィスでの昼食会